

建材 マンスリー

No.721 **11** NOVEMBER
2025

特集

建設現場の “遠隔”最前線

ここでちょっと一息 Coffee Break

街と人の再生で、
健康長寿社会を目指す

注目企業を訪ねる

有限会社原田左官工業所



▼ コックピット内部

必要な設備は専用コックピットや対応建設機械、カメラなど。現場環境に合わせてWi-Fiなど一般的に活用されているインターネット回線で通信する



◀ コックピットイメージ
「スペースシップ」タイプ

「データ活用」が急がれています」
こうした中、EARTHRAINでは建設現場のDX化を実現するソリューション群として、建設プロセス全体をデジタルで管理する「Smart Construction®」シリーズを提供している。その一環として、建設業界における抜本的な課題解決に不可欠な「現場の無人化」遠隔化＋自動化を実現する「無人化施工ソリューション」の開発にも取り組んできた。その第一歩が「Teleoperation」だ。「この遠隔操作システム

の導入によるメリットとして、まず労働生産性向上が挙げられます。短時間しか建設機械が稼働しない現場が複数ある場合、遠隔操作なら一人でこれらの現場を担当できます。また、難しい作業は現場で搭乗操作を行い、簡単な作業は遠隔操作するなど使い分ければ、稼働率向上につながることも可能です。さらに、危険な現場での作業をオフィスから快適に行えるなど労働環境改善にもつながり、女性活躍にも有効です」
「Teleoperation」の最大の強みは、他の「Smart Construction®」シリーズと連携することで、より効率的に活用できる点だ。例えば、遠隔で複数の現場を担当する場合、どの現場にいつダンブが到着するかを把握していないとスムーズな作業につながらない。そこで、車両動態管理システム「Smart Construction Fleet」を活用すれば、リアルタイムにダンブの状況を管理でき、効率的な作業が実現する。

“かいつく”「ランダム」で求人にも効果

コックピットのデザインにこだわっている点も特徴だ。

建設現場の“遠隔”最前線

人材の高齢化や新規就業者の減少、危険を伴う労働環境での安全対策、残業時間の上限規制など、建設業界が解決しなければならない課題は山積している。

このような状況下で、2024年4月に国土交通省は、2040年度までに建設現場での省人化や生産性向上、働き方改革と多様な人材確保を実現するための『i-Construction 2.0』を策定。

建設現場のオートメーション化に向けた、“遠隔”による施工や管理などの取り組みが加速している。今号では、今、建設業界において“遠隔”がどのように進化し課題解決に寄与しているのかを紹介する。



“無人化”への第二步となる遠隔操作システム [Smart Construction Teleoperation]

株式会社EARTHRAIN

建設機械大手のコマツと、そのグループ会社で建設業向けデジタルソリューションの開発・提供を行う株式会社EARTHRAINが共同で開発した建設機械向けの遠隔操作システム「Smart Construction Teleoperation」。生産性向上や労働環境の改善などに寄与する取り組みとして注目だ。

生産性向上や労働環境の改善に貢献

2023年よりコマツグループが提供している「Smart Construction Teleoperation」(以下「Teleoperation」)は、事務所などの安全・快適な環境から現場の油圧ショベルを遠隔操作できるシステムだ。建設機械から送られた高精細映像を見ながら、遠隔操作用コックピットで実際の運転席に搭乗したように臨場感ある遠隔操作を行える。現在約1000km離れた場所から操作が可能であることを確認。建設現場だけではなく、災害復旧や産業廃棄物処理など危険や健康リスクを伴う現場でも活用されている。

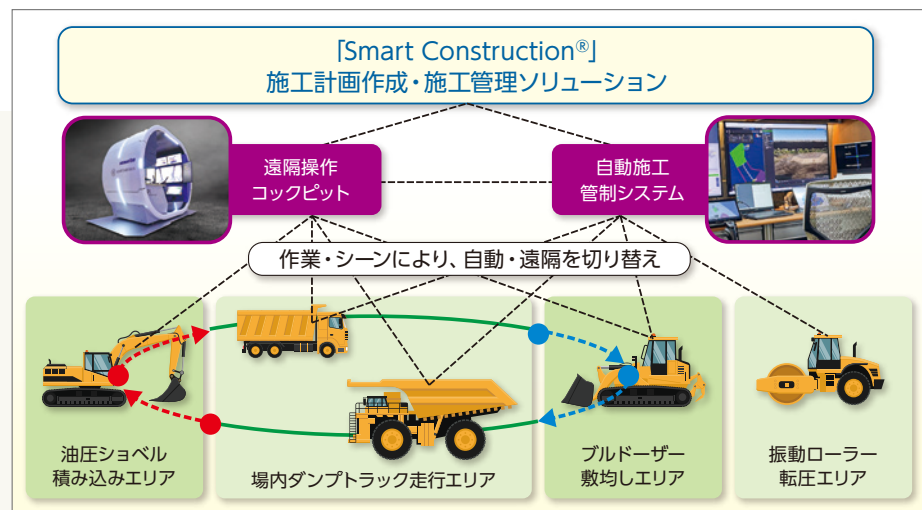
「国土交通省が『i-Construction 2.0』を策定し、建設現場での省人化



IoT開発担当
ヴァイスプレジデント
大場 重生 氏

への取り組みが強化されています。その背景には、生産年齢人口の減少や災害の激甚化・頻発化、インフラの老朽化など建設業界が直面している課題があります。とりわけ生産年齢人口については、2040年度には2020年度比で約2割の減少が予測されており、対策が不可欠です。そこで、少ない人数で個々が生み出す価値を向上させるとともに、安全性向上や労働環境の改善のため、建設現場のオートメーション化に向けた取り組みが推進されており、これを実現するための“遠隔化”自動化

● 「無人化施工ソリューション」で目指す建設現場のイメージ



秒程度の遅延が生じるなど、改善点は残されている。ネットワーク環境に左右されない安定的な動作も課題の一つだ。

「これらの課題解決に取り組みながら、5年後には、土木工事のメインである道路と河川の工事で無人化施工を浸透させたいですね。そして、住宅などの小規模な工事にも遠隔施工を拡大していければと考えています」

オールインワンの遠隔管理サービス「Log System」が現場の在り方を変える

株式会社 log build

品質管理や安全管理、進捗管理を“見える化”してリモートでの施工管理を可能にする「Log System」は、長時間労働や属人的な管理体制など、建設業界の課題を解決に導くプラットフォームだ。

ツール売りだけでなく
導入後も伴走

株式会社 log build が 2020 年より提供している「Log System」は、遠隔施工管理をオールインワンで支援するサービスで、全国 7 万カ所以上の現場で活用されている。このシステムには「Log Walk」「Log Meet」という 2 つのツールと、遠隔管理専用の報告書アプリがある。「Log Walk」は 360 度カメラで撮影した現場情報をまるごと VR 空間化することにより、問題箇所の指摘や図面の確認など、現場で行われてきた施工指示を VR 空間で実施できる。また、パソコンやタブレットなどを使ってクラウド保存された VR 空間を自由に動き回ることができ、現場監督だけでなくすべての関

係者が「Log Walk」から進捗を確認可能だ。

さらに、現場と事務所をつなぐビデオ通話ツール「Log Meet」を利用すれば、遠隔からのポインター指示や記録写真の撮影、寸法計測も可能。これにより、施工品質の均一化が進み、施工品質の向上につながる。「当社サービスが他社と大きく違うのは、ツール売りではなく“成功への伴走”を行っている点です。関連会社として建築会社の ecomo があるのでツールだけ渡されても現場は変わらない”ということとはよく理解しています。同社で遠隔管理を成功させたノウハウを基に、導入企業が成果を出すまでのコンサルティングを行っています。また、システムは自社開発であるため、現場や職人からのニーズをスピーディーに取

②「現場をきれいにして、お客様に喜ばれたい」に添える

リモートダイコウは、現場の整理整頓や安全対策を遠隔でチェックし、写真と報告書で改善点をフィードバックし、清潔な現場づくりを促す。きれいな現場を維持することで、職人や社員の「自社への誇り」と顧客満足度の双方が高まる。

③「現場管理の人手が足りないから手伝ってくれる？」に添える

少ない人員で生産性を高めるために、log build のリモートダイコウチームを「自社の一員」として活用できる。社員は、社員にしかできない業務へ集中し、現場のチェックや確認は log build が担うことで、効率的で負担の少ない働き方を実現する。

④遠隔 DX 化の仕組みを整えて自社運用へ
リモートダイコウは、導入初期の運用設

り入れられる点も強みです」

現場監督としての経験が
慣習に疑問を持つきっかけに

log build は 2020 年創業のスタートアップ企業だが、代表を務める中堀氏は職人や現場管理者として経験を積んだ後に、20 代で独立して建設会社「株式会社 ecomo」を設立したという経歴を持つ。

「いくつもの現場を掛け持ちするため、移動時間が 1 日 3 ～ 4 時間にも及ぶ非効率さや、それに伴う長時間労働に強い問題意識を持っていました。工程表や見積もり、図面をチェックするなどの重要な業務も車での移動の時間を縫って行うという状態で、本当に時間をもったいなかった。何とか楽に、効率的に仕事を進めたいという純粋な動機が、業界の慣習に疑問を持つきっかけとなりました」

建築会社を経営する立場となり、現場監督の疲弊が会社の業績に直結する事業課題へと発展していくことに気付いたという。これを解決する手段はリモートであると考え、自社で遠隔管理システムを開発・導入。現場監督が現場に足を運ぶことなく管理ができる体制を構築し、働き方

計から体制構築までを支援し、最終的には企業自身が遠隔管理を自走できる状態へ導く。ノウハウを共有し、現場と事務所がスムーズに連携する DX 基盤づくりを後押しする。

⑤データを蓄積して、将来の AI 活用へ

遠隔管理で取得した現場データは「Log System」に蓄積され、将来的には log build が開発を進める AI による自動分析に活用可能。品質や安全の自動チェック、進捗の予実管理など、データに基づく次世代の施工管理を実現する。

「普及を拡大するための最大の壁は、技術やコストではなく“現場に行くべき”というまだ業界に残る固定観念です。この意識改革が最も困難かつ重要だと感じています」

「デジタル化の波は、もはや避けては通れない。遠隔化は単なる効率化ではなく、品質向上、人材確保、顧客満足度向上に直結する、企業の生き残りかけた“経営戦略”である。「当社としては、日本のきめ細やかな建設管理ノウハウをシステム化し、世界で戦うための武器として海外への展開も模索しています。AI によ



代表取締役

中堀 健一 氏

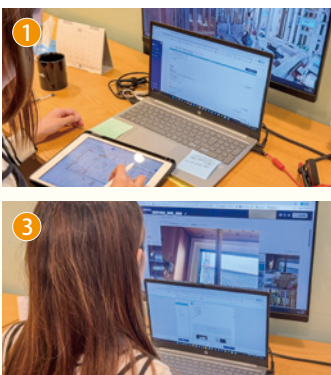
改革と生産性向上の実現を図った。「建築会社での成功体験を、業界全体の課題」の解決につなげるべく、log build の創業に至りました。当初は“現場に行くのが当たり前”という風潮が根強く、リモートという手段はなかなか受け入れられませんでした。しかし、コロナ禍により対面が敬遠されリモートへの心理的ハードルが下がったことで、徐々に注目が集まりました」

Log System ユニコー
ダイ「AI」強い経営基盤を

遠隔施工管理を導入したいが人材確保が難しいという企業に対応するため、log build と ecomo が培ってきた現場管理の知見を基に、「Log System」を活用した遠隔管理体制を代行する「リモートダイコウ」というサービスを 2024 年にスタートしている。

①「現場の品質チェックって、どうしたらいいの？」に添える

● Log System による遠隔チェックの一連の流れ (サッシチェックの例)



- 1 Log Walk (360 度 VR) で画面チェック
- 2 Log Meet (ビデオ通話) で遠隔立ち会いチェック
- 3 報告書アプリで書類作成
建築会社へチェック報告書を提出

る画像解析なども進化させ、建設業界の『ChatGPT』のような存在となり、現場の自動化をより推進していきたいと考えています」

● 「Log Walk」「Log Meet」「リモートダイコウ」の概要

Log Walk



● 360 度 VR 空間を事務所で見ながら遠隔で、進捗管理・品質管理・安全管理を行うことが可能

Log Meet



● 関連会社である建築会社 ecomo の現場で、職人の実際の声を基に開発。操作不要の各種自動機能を搭載し、職人は「スマホを持って現場を歩くだけ」でよい

リモートダイコウ



● 標準施工要領書の作成、チェックシート整備などの仕組み作り、品質管理や安全管理のチェックを代行。小規模工務店からハウスメーカーまで、約 50 社を支援している (2025 年 11 月現在)

“遠隔操作×ゲーム”で若年層や未経験者を建設業界へ引き付ける

2016年に運輸・建設業界における様々な課題解決を目的に設立された運輸デジタルビジネス協議会。同協議会が2022年から開催している「e建機®チャレンジ」は、遠隔操作技術のPR並びに実証の場となっており、「遠隔操作×ゲーム」という新たな発想で建設業界との接点がない人材に対して業界をアピールする機会としても注目を集めている。

「e建機®チャレンジ」はeスポーツ

サークル所属の学生やプロeスポーツ選手、現場で遠隔施工に従事している建設企業などが、チーム戦で建設機械を遠隔操作し、スピード・正確性・安全性などを競い合います。

2025年は大阪・関西万博のイベントとして、大阪府から千葉県の出圧シヨベルとキャリアダンブを遠隔操作



ARAV製の遠隔操作システムを設置した建設機械を遠隔地から操作する。油圧シヨベルで掘削した土をキャリアダンブに入れ目的地まで運ぶタイムトライアルで、掘削量が少ない、安全性に欠けるなどのマイナスポイントでは時間が加算される

するタイムトライアルを実施しました。

建設業界では人材不足が大きな課題となっており、協議会では省人化に向けて遠隔施工の検証等を行ってきました。一方で、新たな若い人材の発掘・育成も必要だと感じ、「遠隔操作×ゲーム」という着想に至りました。特にeスポーツ選手は年齢も若く、デジタル機器に慣れ親しんでいることから遠隔操作などの新技術への対応力も期待でき、建設業界との親和性が高いと考えています。「e建機®チャレンジ」に参加したeスポーツ選手からは、経験が生かせる場としてセカンドキャリアの可能性を感じたとの声もいただいています。

“遠隔操作”が業界に興味を持つきっかけになる

「e建機®チャレンジ」のサポート

企業である植村建設では、「遠隔操作」という観点から業界未経験者へアピールし、継続的な人材採用を実現しています。同社のある北海道赤平市は特に人口減少が進むエリアで、人材確保は大きな課題でした。そこで、育児中の女性などフルタイムは難しいといった人材を確保するため、働き方の多様化を推進。建機経験のない人でも扱えるようICT技術を取り入れ、遠隔施工にも積極的に取り組んでいます。また、遠隔操作の体験施設を整備し、学生向けイベントなどを開催してきました。若年層により興味を持ってもらうため、ゲーム機のPS5のコントローラーで遠隔操作ができる装置も製作。ゲーム側に寄せることで若年層にとっては操作の容易性が高まる他、建設業にもデジタルのフィードがあるというイメージの浸透にもつながっています。

今後、遠隔施工の社会実装を進めていくには、利用者の訓練も重要で、遠隔施工のシステムを導入しても、慣れた実機の方が良いと諦めるケースもあります。また、通信技術や操作性の向上など一層の技術革新も不可欠です。資格や業法制定なども取り組んでいきたいと考えています。



植村建設株式会社
常務取締役

山本 雅 氏



伊藤忠商事株式会社
建機・産機部 新規事業統括

池田 靖 氏



ARAV株式会社
代表取締役

白久 レイエス樹 氏



一般社団法人
運輸デジタルビジネス協議会
事務局長理事

鈴木 正秀 氏



ここでちょっと一息

Coffee Break

Vol.
94

住宅業界の旬な話題をお届けします！

住生活ジャーナリスト 藤井 繁子

『月刊 HOUSING』編集長・リクルート住まい研究所主任研究員などを経てフリージャーナリストに。マンション購入・戸建て建築・リフォームと自邸で実践しながら、国内外で取材・コンサルティング活動を行う。



街と人の再生で、健康長寿社会を目指す

団地再生に産官学民で取り組む

2025年9月、大和ハウス工業と東京大学は、同社からの寄付をもとに「東京大学住宅都市再生研究センター」を新設し、現代の住宅・都市再生の諸課題の解決に向けた研究を行うと発表しました。郊外住宅団地の再生では、大和ハウス工業の団地再生事業「リブネスタウンプロジェクト」も研究対象となる予定です。その一つ、「横浜上郷ネオポリス」は1970年に造成を開始した団地です。人口減少や高齢化、近隣店舗の閉店などの課題に直面する中、今年7月にはコミュニティの拠点「創テラス」をオープンし、産官学民連携によるタウンマネジメントの実証実験を行っています。

【横浜上郷ネオポリス】（大和ハウス工業）



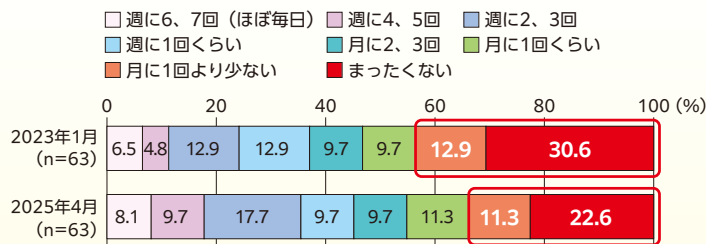
横浜市栄区、総戸数：846戸、人口：約2,000人、65歳以上の高齢化率：48.6%、空家率：約2%。（右）【創テラス】（一社）横浜上郷ネオポリスのタウンクリエイターが常駐し運営。住民がふらりと立ち寄れる居場所に。所有者：大和ハウス工業

「創テラス」では住民主体の（一社）横浜上郷ネオポリスが運営を担い、カルチャースクールなどの運営や街の情報発信、住民の困りごと相談などを行っています。吉井代表理事は、「訪問リフォームに対する相談は多く、怪しい会社からの被害を免れるケースもあります」と言います。住民の困りごと相談では、大和ハウスグループと業務提携し問題解決に取り組んでいます。また今後は見守りを兼ねた買物サービスも検討しているようです。

シニアの健康長寿に効果的なサービスは？

旭化成ホームズのシニア向け賃貸住宅「ヘーベルVillage」は、サービス付き高齢者向け住宅とは異なり、日中は常駐スタッフを置かず食堂も設けないことでコストを抑えています。見守りは設備が対応し、相談員の訪問により健康維持をサポートするサービスが特徴です。「ヘーベルVillage」に入居し2年経過した人に調査を実施（2023年1月/2025年4月の2回）した結果、健康長寿延伸到重要とされる「運動」「食事」「交流」の数値が増えていました。

【友人・知人との交流頻度の変化】（旭化成ホームズ）



注目はグラフにある「交流頻度」において、“月1回以下”+“まったくない”が計33.9%と2年間で9.6ポイント減少した点です。毎月1回相談員が入居者を訪問し話を聞く他、健康行動へのアドバイスが、外出やイベント参加の動機付けとなったようです。相談員の費用は管理費に含まれており、対面で話せるサービスを継続して受けられるので、自立できる高齢者にとっては孤独感を軽減し生きる気力を保つサービスとなりそうです。

人生100年、住まいを再生し人を再生する

ミサワホームは40年前から取り組んできた介護事業を2024年にウエルネス事業と改名し、事業領域を拡大しています。「マザアス」ブランドとして介護施設の運営を自前で手掛けてきた知見を基に、健康寿命を延伸する「ミサワウエルネスPLAN」を策定しました。ストック事業との連携を強化し、将来に対応できるリフォームを提案しています。

自宅を終の住み家として希望する人のニーズは高いものの、在宅介護を見据えて早期にリフォームするケースは少ないのが実情です。ミサワホームで長年介護事業を推進してきた吉田エグゼクティブアドバイザーは「50、60代の子世代とその親に向けた“親子で考える”セミナーを実施し、早めのリフォームが健康寿命を延ばすと啓蒙しています」と話します。適切な相談・設計ができるよう研修を重ねたリフォームエンジニアは約1,300人となり、成功事例も増えているようです。「自宅のハードで将来在宅介護がしやすいか決まってしまう」と吉田氏。住まいによって家族の負担も寿命も変わります。

【人生100年時代応援 判定スケール】（ミサワホーム）



QRコードなどから質問に回答すると、ライフプランや住まいなど5項目について判定されたアドバイスシートが作成される。そこから各種相談を各企業などにつなぐ。作成協力：東京大学大学院 大月敏雄教授（2025年7月、ミサワホーム総合研究所 技術アドバイザー就任）

注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

若手や女性人材の育成に取り組み “伝統的な技術力×提案力”で 左官の可能性を切り開く



代表取締役社長

原田 宗亮氏

本社 ● 東京都文京区千駄木
4-21-1 ハラダビル
創業 ● 1949年
資本金 ● 4,800万円
従業員 ● 56名
事業内容 ● 左官工事、タイル貼り工事、
防水工事、れんが・ブロック
工事業

職人がフリーエーターとして関わる
提案型左官のプロ集団

「コテを用いて漆喰などを壁に塗り上げていく左官。高度な職人技が光る分野だが、活躍の場は減少傾向にあり人材不足も進む。そんな中、伝統的な左官の技術を土台に柔軟な発想で表現の幅を広げ、若い人材の育成や女性が活躍できる環境づくりにも注力する原田左官工業所。『提案型左官』という新たな可能性を開拓し、商業施設やホテル、オフィスなどの大型プロジェクトを手掛け注目を集めている。」

「材料の調合や塗りの手仕事など職人技が左官の魅力で、50〜60年前までは個性があるのが当たり前でした。しかし、建物の工業化が進み均一性が求められる時代になる

求める施設や店舗からの需要が高まり、現在では非住宅分野が8割を占めるという独自の地位を築き上げた同社。この提案型左官を支えるのは優秀な人材であり、左官の魅力を生かせるかどうかは職人の技術次第であることから、人材育成や技術継承の革新にも取り組んでいる。

「かつては当社も『職人技は目で見て盗め』というやり方で、入社後すぐにコテを握るなどもつての外。何年かは下働きが常識の世界でした。しかし、若手が長続きせず人材不足が進むのは教え方に問題があるのでと考え、2012年から動画を活用した技術習得の手法である『モデリング訓練*』を導入しました。入社後すぐにコテを持ち、先輩職人のサポートを得ながら練習を開始します。左官業務の基礎が身に付くと技術習得のコツに自身で気づくようになり、職人技の難しい領域でも努力し続けられるようになります。教える職人にとっても基礎が分かっている若手の方が教えやすい。職人として独り立ちするまでの期間が劇的に短縮されるわけではありませんが、若手の定着率は目に見えて改善しています」

—— 女性職人の活躍も同社の特徴で、女性社員比率は約4割と業界でも異色の存在だ。約40年前の先代の時に、事務職の女性社員が職人になりたいと希望したことがきっかけだったという。

ここが注目ポイント

「提案型左官」で
顧客ニーズを引き出した空間を演出

「モデリング訓練」の導入で
技術継承と人材の定着に成功

適材適所や天候に
左右されない働き方で
誰もが働きやすい職場を実現

● 工房で製造している漆喰製品例



● 若手人材の育成をサポート



モデリング訓練の様子。ベテラン職人の塗り作業を動画で見てコテの扱いや体の動きを学習。自身の塗り作業を撮影しベテランとの違いを修正しながら基本を覚える

● オリジナル素材を使用した施工例



店舗のカウンターに割れた薩摩焼を埋め込み、あえて表面をかき落とした荒い質感で仕上げた
現場でデザイナーと相談しながら壁に枯山水のような左官仕上げを施した

● ショールーム「SAKAN LIBRARY」



常時100種類以上のサンプルを用意。触感などを直に確認できる

と、あらかじめ材料がブレンドされた使いやすいプレミックスなどが登場します。面白さや挑戦できる環境があれば担い手は増えず、左官の可能性も広がります。そこで2010年ごろから、顧客のニーズを左官の技術で具現化し付加価値を提供する『提案型左官』に舵を切ったのです」

—— 同社では、決められた材料や施工方法で仕上げるのではなく、職人と営業がチームを組んでフリーエーターとして関わり、店舗のコンセプトや顧客のニーズに合わせたデザインを提案する。カフェではコーヒー柄や茶葉を混ぜた漆喰を開発したり、インバウンド向けのホテルの壁に漆喰で枯山水をデザインするなど、店舗ごとに唯一無二の空間を演出できるのが強みだ。

「伝統的な左官技術を土台に、独自の素材・配合・塗り方で質感や模様を様々に表現するオリジナル壁シリーズも商品化しました。左官は実物を見ないと良さが伝わりにくいので、ショールームも設置し、多彩な素材や表現方法などを実際に感じてもらう場として活用しています」

新しい技術習得の仕組みを導入し
誰もが働きやすい環境を整備

—— 空間デザインにオリジナリティーを

「作業の全工程で男女平等にこだわるのではなく、それぞれが得意な作業を率先して進めることで、作業が早くきれいに仕上がるなど、チームとして最大限の力を発揮できるようになりました。また、育児休暇などの制度も打ち出したところ、若手の男性職人にとっても働きやすい環境につながっています。これまでの男性職人中心の世界には少なかった多様な人材も集まるようになりました」

—— このような挑戦ができるのは、何でもチャレンジしてみようという風土があるからだ。かつて左官仕事が大きく減った時代に、タイル工事などの異業種や面倒な注文にも取り組んできた。その過程で新しいチャレンジに対する柔軟性も育まれた。

「今後は家具や置物など工房で製造できる漆喰製品を増やしていく予定です。左官の仕事は天気に左右される不安定な働き方で、また遠方の現場は時間に制約のある社員では対応が難しく、キャリアを諦めざるを得ない場合もあります。しかし、自社工房でできる作業が増えれば、男女問わず働きやすくなり定着率がより高まるはず。職人の高齢化が進む中、今、左官に挑戦すればこの先業界の中核を担う人材にもなれます。そんな左官業界の可能性を知ってもらう取り組みも行っていく予定です」

* モデリング訓練：中屋敷左官工業発案の左官育成方法

「GX ZEH」「GX ZEH-M」という新たな定義を作成 —— 経済産業省

経済産業省は住宅における省エネルギー性能けん引の担い手であるZEH・ZEH-Mについて、より高い省エネルギー性能を掲げた「GX ZEH」及び「GX ZEH-M」を新たに定義した。2024年度に開催した「ZEH・ZEH-M委員会」では、以下の3点を新たなZEH・ZEH-Mの観点として定義を検討した。

1. 2050年の目標達成*1をけん引する省エネ性能
2. 自家消費拡大措置を通じた住戸単位でのエネルギー自給率の向上
3. 再生可能エネルギー設備設置に係る条件の見直し

なお、新たな定義の名称は、現行のZEH・ZEH-Mを踏襲しつつ違いが分かるよう「GX ZEH」「GX ZEH-M」とした。

● GX ZEHの定義（戸建住宅 2027年4月以降適用）

戸建住宅のGX ZEHシリーズ*2は、「外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギー等を導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した住宅」とする。

*1：2050年の住宅ストック平均で、ZEH基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指す
*2：「GX ZEHシリーズ」とは、GX ZEHにGX ZEH+、Nearly GX ZEH、GX ZEH Orientedを含めた広い概念を表す

■ GX ZEHシリーズの定義

GX ZEH+
外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギー等により年間の一次エネルギー消費量がマイナスの住宅
GX ZEH
外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギー等により年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの住宅
Nearly GX ZEH
GX ZEHを見据えた先進住宅として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギー等により年間の一次エネルギー消費量をゼロに近づけた住宅
GX ZEH Oriented
GX ZEHを指向した先進的な住宅として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた住宅（多雪地域・都市部狭小地に建築された住宅に限る）
● 設備要件
高度エネルギーマネジメント／定置用蓄電池
● 推奨事項
EV充電、充放電設備／再生可能エネルギー導入検討

「建築物のライフサイクルカーボンの算定・評価等を促進する制度に関する検討会」の中間とりまとめ案を公表 —— 国土交通省

「2050年カーボンニュートラル」達成に向け、建築物の計画から解体までのライフサイクル全体で排出されるCO₂を含む環境負荷の算定・評価（「建築物LCA」）を実施し、CO₂排出量を削減する制度を構築する必要がある。関係省庁の連絡会議では「建築物のライフサイクルカーボン（LCCO₂）の算定・評価等を促進する制度に関する検討会」を設置して検討を行っており、中間とりまとめ案を公表した。

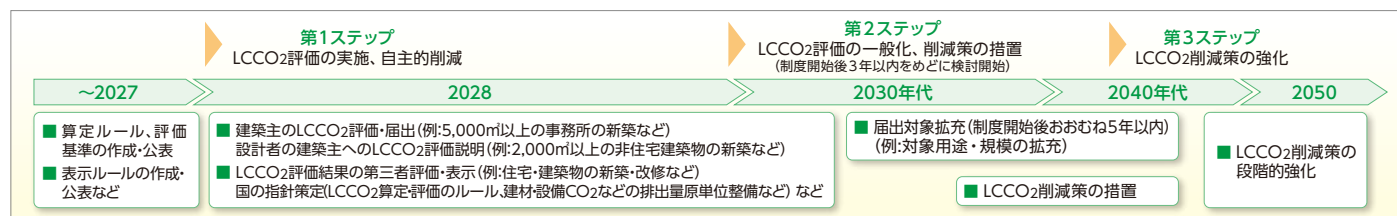
■ 現状・課題と早急に講ずべき施策

- ① 各ステークホルダーの役割の明確化
建築主、設計者、施工者、建材・設備製造事業者の役割を明確化
- ② 建築物のライフサイクルカーボン評価に係るルールの策定
建築物のLCCO₂の算定ルール及び算定結果の評価基準の策定
- ③ 建築物のライフサイクルカーボン評価の実施を促す措置
● 2,000㎡超の非住宅建築物の新築・増改築では、設計者

がLCCO₂の評価と削減策を建築主に説明する案を検討

- 5,000㎡超の事務所では、LCCO₂評価届出と設計段階での削減促進を検討
 - その他、国庁舎での評価先行や優良事業者の選定・公表を検討
- ④ 建築物のライフサイクルカーボン評価結果の表示を促す措置
建築物のLCCO₂評価結果に係る表示ルールの策定、第三者評価・表示制度の創設を検討
 - ⑤ 建材・設備のCO₂等排出量原単位の整備
建材・設備CO₂等排出量原単位の整備方針の策定及び建材・設備における表示ルールの策定を検討
 - ⑥ 建築物のライフサイクルカーボン評価を促進するための環境整備
LCCO₂評価・原単位整備支援を検討し、産学官で人材育成と体制整備を推進

◆ 建築物のライフサイクルカーボン(LCCO₂)の削減に向けたロードマップ



編集室より

■ 弊社ホームページにPDF版を掲載中です。

住友林業 建材マンスリー

検索



■ 送付先の変更、広告掲載・誌面に対するご意見などは以下までご連絡ください。

メールアドレス: kenzai-monthly@sfc.co.jp

住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

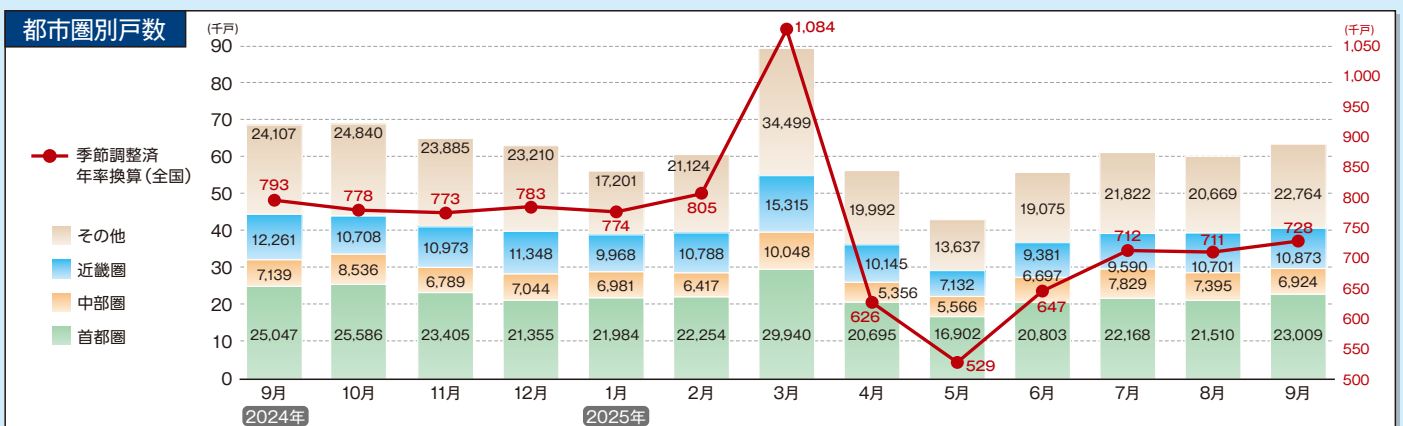
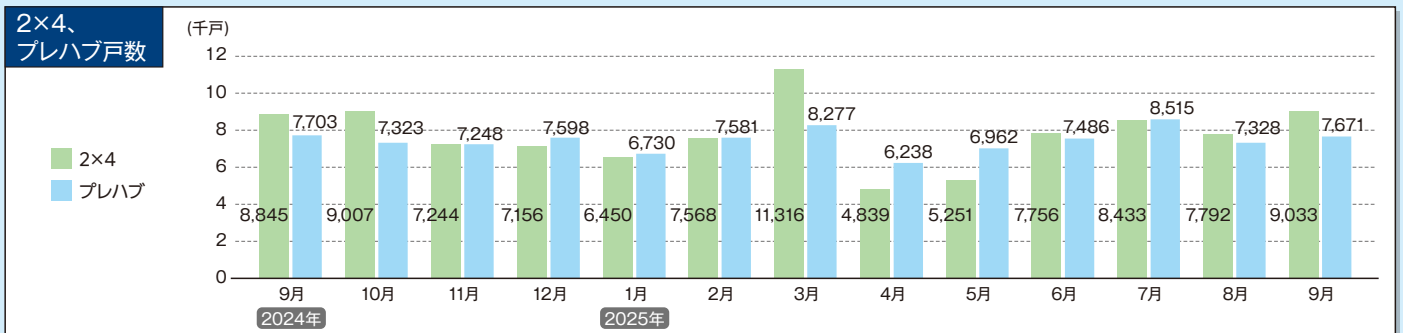
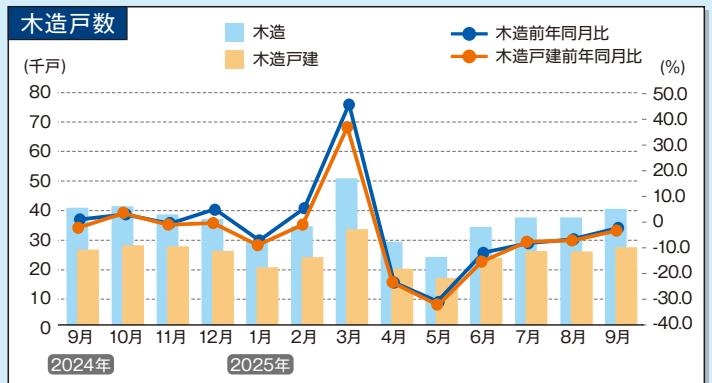
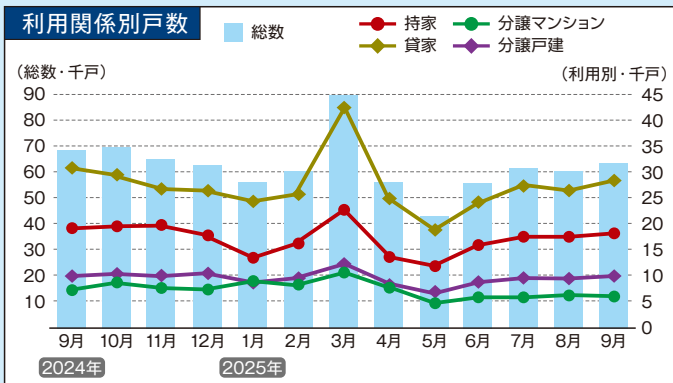
最近、今さらながら、鬼になった妹を助ける少年を主人公にした「〇〇の刃」のアニメ鑑賞がひそかな楽しみです。そして先日、劇場版「『〇〇の刃』無限城編 第一章 猊窩座再来」を見に行きました。“日本を含む全世界における日本映画歴代興行収入1位”を達成したとのことで、期待を裏切らない見ごたえでした。「続きが気になる！」ということで、どうせなら漫画を全巻大人買いしてしまおうかと、鬼と戦う主人公を横目に理性と戦っている今日このごろです。(E)

表紙：住友林業（株）住宅事業本部 大阪北支店 箕面第一展示場

* 家具などのインテリア品は実際の展示と異なる場合があります

2025年9月の新設住宅着工戸数 単位：戸 ▲は減

		9月					8月	7月	6月
		対前年同月比			対前々年同月比				
新設住宅計		63,570	▲ 4,984	▲ 7.3%	▲ 5,371	▲ 7.8%	60,275	61,409	55,956
建築主別	公共	785	439	126.9%	389	98.2%	132	662	797
	民間	62,785	▲ 5,423	▲ 8.0%	▲ 5,760	▲ 8.4%	60,143	60,747	55,159
利用関係別	持家	18,273	▲ 1,082	▲ 5.6%	▲ 1,254	▲ 6.4%	17,532	17,665	16,030
	貸家	28,494	▲ 2,539	▲ 8.2%	▲ 1,241	▲ 4.2%	26,585	27,412	24,289
	給与住宅	375	131	53.7%	▲ 38	▲ 9.2%	339	446	562
	分譲住宅	16,428	▲ 1,494	▲ 8.3%	▲ 2,838	▲ 14.7%	15,819	15,886	15,075
	うちマンション	6,121	▲ 1,530	▲ 20.0%	▲ 2,027	▲ 24.9%	6,148	5,971	5,945
	うち戸建	10,070	▲ 41	▲ 0.4%	▲ 944	▲ 8.6%	9,476	9,709	8,921
資金別	民間資金	57,865	▲ 5,030	▲ 8.0%	▲ 5,411	▲ 8.6%	55,545	55,883	50,496
	公的資金	5,705	46	0.8%	40	0.7%	4,730	5,526	5,460
	公営住宅	741	419	130.1%	350	89.5%	108	627	718
	住宅金融機構融資住宅	1,490	▲ 612	▲ 29.1%	▲ 650	▲ 30.4%	1,372	1,482	1,451
	都市再生機構建設住宅	0	0	—	0	—	0	0	0
	その他住宅	3,474	239	7.4%	340	10.8%	3,250	3,417	3,291
構造別	木造	40,060	▲ 899	▲ 2.2%	▲ 380	▲ 0.9%	37,046	37,024	33,794
	非木造	23,510	▲ 4,085	▲ 14.8%	▲ 4,991	▲ 17.5%	23,229	24,385	22,162
	鉄骨鉄筋コンクリート造	117	▲ 162	▲ 58.1%	▲ 297	▲ 71.7%	443	166	538
	鉄筋コンクリート造	15,275	▲ 3,750	▲ 19.7%	▲ 2,737	▲ 15.2%	14,878	15,625	13,851
	鉄骨造	8,100	▲ 133	▲ 1.6%	▲ 1,923	▲ 19.2%	7,868	8,544	7,750
	コンクリートブロック造	12	▲ 15	▲ 55.6%	▲ 24	▲ 66.7%	33	42	17
	その他	6	▲ 25	▲ 80.6%	▲ 10	▲ 62.5%	7	8	6

(出典：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html)



詳しくは公式ホームページをご覧ください。

Noare

ノーレ

暮らしを紡ぎ、日々を潤す「Noare(ノーレ)」

洗面脱衣室のような限られた空間だけにとどまらず、
 手洗いや洗顔、メイクなどの限定した用途にもとらわれず
 もっと自由に暮らしを楽しみたい方へ、
 あなたの大切にしたい毎日を紡ぎます。

トクラス株式会社